

**第4回北海道ブロック交流活動**  
**Development Center Interconference 特別ルール及び確認事項**  
**北海道バスケットボール協会 強化育成委員会**

**1. 参加地区数**

男女各16チームで開催予定。

※不参加地区がある場合、交流戦の試合形式は北海道バスケットボール協会が決定する。

**2. 出場選手数について**

○各チームは全ての交流戦で、全ての登録選手を出場させなければならぬ。

※ただし、ケガ・体調不良、地区の事情で人数が満たない場合にはその限りではない。

**3. 試合時間について**

○試合は10分(2分)10分(2分)10分の3Q制とする。なお、攻撃は常に自チームベンチ側で統一する。

**4. 選手の出場クオーターについて**

○DCの交流戦であることから、15名登録のチームについては、1Q~3Qは交代なしで、15名(全員10分の出場時間を保障)の選手を出場させる。但し、登録選手が15名に満たないチームの3Qについては、1・2Qに出場した選手で補充をする。その際、ベンチメンバーでのタイムシェアも可とするため、選手の交代が起こりえる。

※DCの趣旨を理解し、各選手が確実に1Qをフル出場できるよう努めること。

※出場のチェックは行うが、交流戦であることから特別ペナルティーは設けない。

○交流戦のため延長戦は行わない。また、順位決定も行わない。

**5. タイムアウトについて**

○交流戦がDCの内容に沿ったものになっているか、課題をふり返り、改善するために各ピリオド5分を過ぎて、最初にプレーが止まったところでオフィシャルタイムアウト(60秒)が入る。コーチと選手でDCのねらいに沿ったプレーができているかをふり返り、課題と改善点を話し合うために使用する。

○オフィシャルタイムアウト以外のタイムアウトは取ることはできない。

**7. 所属同一チームからの選手出場について(オンザコート4ルール)**

○同一チームの選手が5人同時にゲームに出場することは、他に選手がない場合を除いて認めない(DCの趣旨が普及と育成を目的とするものであるため)。  
但し、地区における登録チーム数が10チーム未満の地区については、このルールは適用されないものとするが、極力オンザコート4を守るよう努力する。

**8. その他**

○試合間は10分間とする。次の試合は前の試合終了後10分後にスタートすることとする。

○ディフェンスはハーフコートマンツーマンとする。オールコートディフェンス、トラップディフェンス・およびダブルチームは禁止とする。ただし、以下のような場面に関してはその限りではない。

① ビッグマンに対してポストヘルプをする場合

② ドライブで抜かれた後にヘルプの際、一時的にダブルチームのようになる場合

○ベンチで指揮を執るスタンディングコーチについて、3名のスタッフがピリオドごとに交代して担当することを基本とする。これは、指導者としての経験を積む機会を広げ、指導者の育成を促すことを目的としている。ただし、地区によっては人員の都合により交代が難しい地区もあることが想定されるため、各地区の実態に合わせ、可能な範囲での実施とする。

## 9. マンツーマン推進について

- 「JBAより提案されているマンツーマンディフェンスの基準規則に則る」ことを各チーム再確認し、選手に伝え、ベンチで指揮をとる者が率先してその指導・指揮を心がけることとする。
- マンツーマンコミッショナーの設置は行わない。

## 10. インテグリティについて（ガイドラインより）

JBAでは、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）にのっとり、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものであります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためにはコーチの振る舞い（行動や行為）も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、ゲームの価値を下げない取り組みを推進することとしました。

### 【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

#### 1. コーチのプレーヤーに対する暴言

- (1) 人格、人権、存在を否定する言葉  
〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様
- (2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉  
〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ
- (3) 身体的な特徴をけなす言葉  
〈具体例〉チビ、デブ
- (4) 恐怖感を与える言葉  
〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

#### 2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

- (1) 段る・蹴るなどを連想させる行為
- (2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕1本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為
- (3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為
- (4) 繰続的、かつ度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
- (5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

#### 3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

- (1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導